新しい市役所の建設がはじまります

市民の皆さんが身近に感じ、つながりの拠点となるような新しい市役所を目指して、令和 4 年度の完成に向け取り組んでいきます。

「長崎駅周辺」、「まちなか地区」、「水辺の地区」といった3つの拠点のつながりを強め、まちのにぎわいを生み出します。
建物は、低層部分と高層部分を組み合わせることで、周辺のまちなみと調和させ、圧迫感をやわらげています。
また、風頭公園などの眺望ポイントからの景観に配慮した高さ、形状としています。

正面玄関前の広場は、長崎駅かもめ広場のイベントスペースよりも一回り広い面積となります。

わかりやすく使いやすい窓口、手続きの待ち時間を快適に過ごすことができる待合などにします。

計画概要

■建築概要

敷地面積	6,710.30 ㎡
建築面積	4,022.69 ㎡
延べ面積	51,747.66 ㎡（駐車場等を除く庁舎機能の面積：46,228 ㎡）
構造	鉄骨造・鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）、免震構造
階数	地上 19 階、地下 1 階、塔屋 1 階
最高の高さ	90.86m

■スケジュール

平成 29 年度（2017）	平成 30 年度（2018）	令和元年度（2019）	令和 2 年度（2020）	令和 3 年度（2021）	令和 4 年度（2022）
基本設計	実施設計	建設工事			

■建設場所

■事業費

種別	金額
設計、建設費等	約 251 億円
既存庁舎解体費	約 7 億円
その他移転費	約 6 億円
合計	約 264 億円

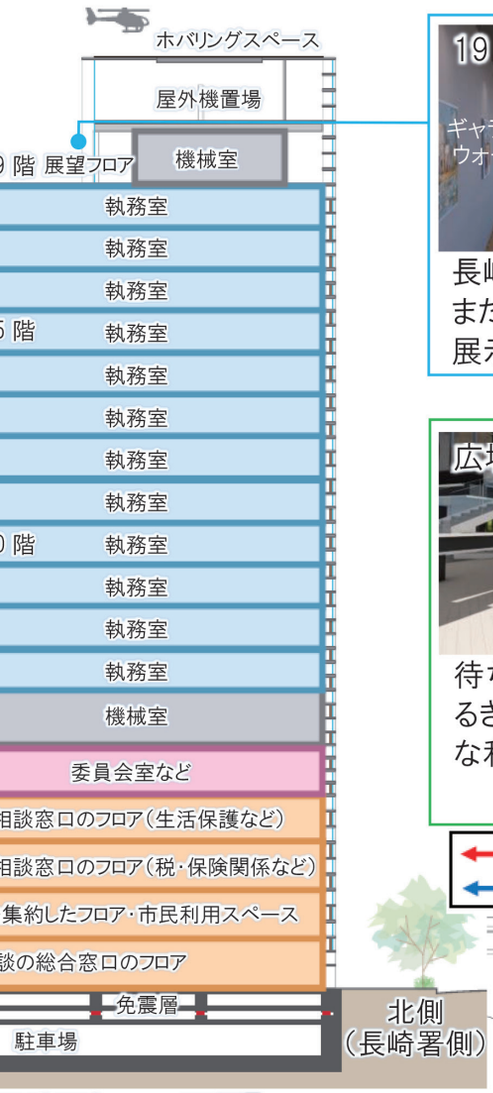
新市庁舎建設事業の経緯や概要等についてはホームページで詳しく紹介しています。

長崎市　新庁舎建設　検索

お問い合わせ　大型事業推進室　TEL　829-1411

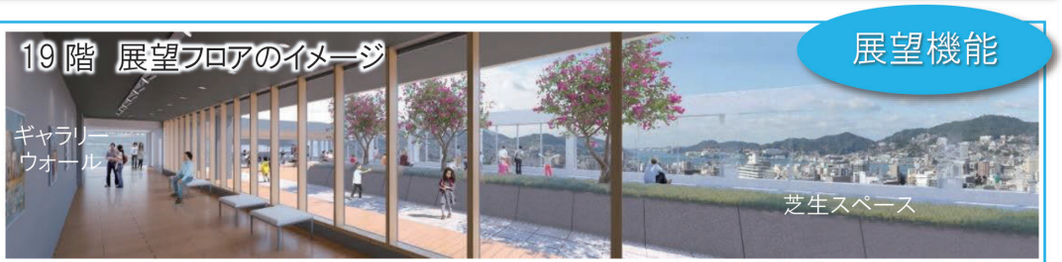
令和元年 7 月作成

口や快適な待合スペース、バリアフリーに対応したトイレや通路、市民の皆さんと行政との協働スペースなど、
提供するとともに、つながりの拠点として、まちの活性化に貢献する庁舎を目指しています。



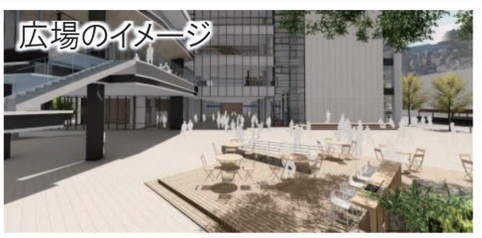
面計画とフロア配置】

展望機能



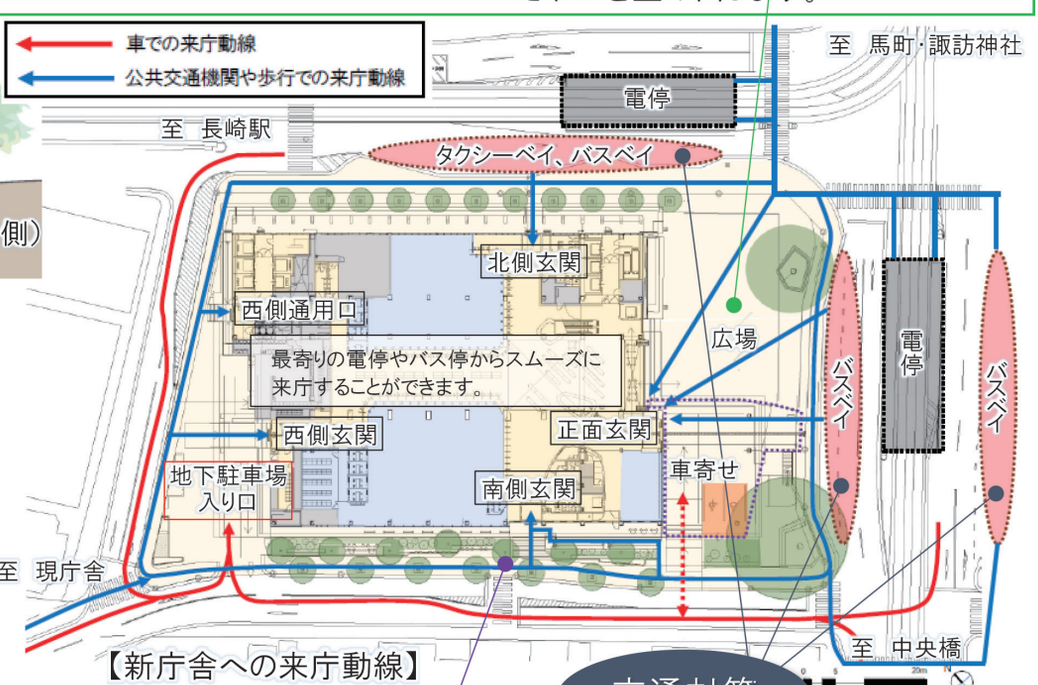
長崎のまちを眺めながら、誰もが思い思いの過ごし方ができる空間とします。
また、ギャラリーウォールには市民の皆さんの様々な活動や長崎の歴史などを展示します。

広場・にぎわい



待ち合わせやバスの待合、まちあるきの際の休憩、イベントなど様々な利用ができる広場です。

魚の町公園とひとつのエリアとして、居心地のよい憩の場とします。イベント開催時には、より一層つながりを持たせ、まちのにぎわいを生み出します。



【新庁舎への来庁動線】

、最新の省エネルギー技術
荷が少ない庁舎とします。

まちなか軸へのつながり

街路樹や植栽とともにベンチを配置することで、快適な空間とします。

交通対策

バスやタクシーの停車スペースを確保し、交通の円滑化を図ります。

新庁舎の主な特徴

新しい市役所は、利用しやすい窓口や
今までよりも質の高い行政サービスを提供

窓口・待合

1階　窓口カウンターのイメージ

座ったままで手続きや相談ができ、プライバシーにも配慮した窓口空間とします。

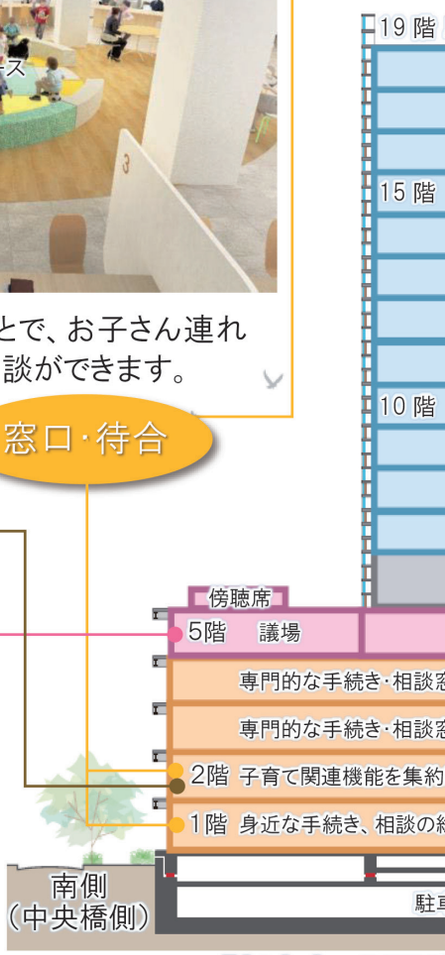
2階　子育て関連窓口とキッズスペースのイメージ

キッズスペースを設けることで、お子さん連れの方も安心して手続きや相談ができます。

市民交流

2階　市民利用スペースのイメージ

市民の皆さんと行政との協働や、市民の皆さん同士の交流の場として利用できます。



【新庁舎の断面計

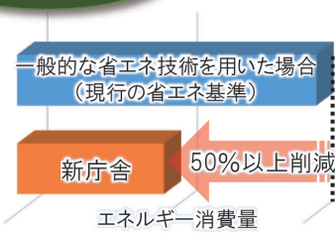
議会機能

5階　議場・傍聴席のイメージ

スクリーンやモニター等を設置し、議場での議論を深め、傍聴者にも分かりやすい環境とします。

お子さん連れの方なども気兼ねなく傍聴できるようにします。

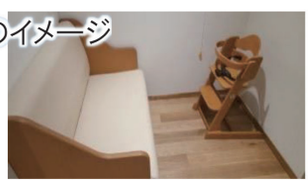
環境配慮



輻射パネル空調方式など、最
を取り入れ、環境への負荷が

ユニバーサルデザイン

授乳室のイメージ



多目的トイレのイメージ

授乳室や多目的トイレ、オストメイトの方も快適に利用できる前広便座を備えたトイレを設置するなど、誰にとっても使いやすい庁舎とします。

新庁舎建設の基本的な考え方

●不足している庁舎機能を拡充します

転入・転出、婚姻、出生などのライフイベントに伴う手続きがワンストップでできる窓口、バリアフリーに対応したトイレや通路、市民の皆さんと行政などとの協働スペースなど、今までよりも質の高い行政サービスを提供します。

●分散している庁舎を一棟に集約します

現在の本館・別館のほか、7か所に分散している庁舎を集約し、業務の効率化と関連する部署の横方向の連携を強くすることで、市民の皆さんへのサービス向上に繋げます。

●防災拠点として必要な性能、機能を確保します

防災拠点施設として、万が一、災害が発生した際にも市民の皆さんを守り、支援することが出来る災害に強い庁舎を目指します。

【庁舎集約のイメージ】

【本館】
住民票・戸籍、税関係の窓口、道路関連部局など

【議会棟】
議場、議会事務局

新庁舎
・市民の利便性向上
・業務効率性の向上

【別館】
福祉、こども関係、上下水道の部局など

【金 屋 町 別 館】水産・農林関係の部局など
【交通会館ビル内】選挙管理委員会事務局など
【商 工 会 館 内】商工・観光、都市計画部局など
【市 民 会 館 内】スポーツ振興課など
【桜町第 2 別館】市営住宅関係窓口など
など

Q1 新庁舎の規模は大きすぎないの？

A1 新庁舎の延べ面積は現庁舎と比べて約 1.5 倍となります。しかし、その多くは市民の皆さんが快適に手続きや相談が行える窓口や待合スペース、プライバシーに配慮した相談室、バリアフリーに対応したトイレや通路など、現在の庁舎に不足している機能への対応を行うものです。

また、子育て関連機能の充実、市民の皆さんが利用できる多目的スペースや会議室のほか、災害対策本部機能の確保など、質の高い行政サービスや安全性も提供していきたいと考えています。

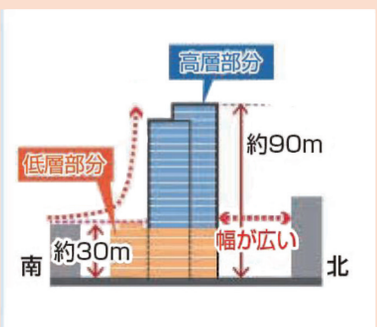
さらに、庁舎を1棟に集約し、関連する部署の連携を強くすることで市民の皆さんに迅速なサービスを提供していきます。

なお、将来の人口減少と同じ割合で職員数が減ると想定した場合でも、約 20 年後の職員一人あたりの庁舎面積は、長崎市と同規模で近年建てられた市庁舎の水準（約 25 ㎡）を下回っており、将来を見越しても過大な庁舎面積ではないと考えています。

Q2 新庁舎の高さはどのようにして決まったの？

A2 市民の皆さんが手続きや相談に訪れる窓口を、来庁しやすい場所に配置することとし、必要となる床面積を積み上げ、これに議会機能を加えて低層部分は5層としました。

また、高層部分については、必要な床面積を確保しつつ、南側や西側の建物への圧迫感をやわらげるために、道路の幅が広い北側に配置するとともに、風頭公園などの眺望ポイントからの景観に配慮するため、高さを約 90mとしています。



Q3 将来の世代に財政的な負担を与えないの？

A3 新庁舎建設事業の財源は、これまで積み立ててきた貯金（基金）が約 160 億円、国からの支援が約 48 億円、新庁舎の中に入る上下水道局の負担金が約 27 億円あります。したがって、今後の財政負担としては、総事業費の約 1/10 の約 29 億円となっています。

種 別	金 額
これまで積み立てた貯金（基金）	約 160 億円
国からの支援※1	約 48 億円
上下水道局の負担※2	約 27 億円
今後の財政負担	約 29 億円
合 計	約 264 億円

※1 国庫補助金、地方債のうち交付税措置額
※2 市の一般会計から独立して運営している上下水道局の負担金（上下水道局では、この負担を見込んだ上で、将来の経営計画を立てています。）